

IV 教育活動

1. 新入生ガイダンス

毎年、入学式後に各学部毎において、教養教育及び専門教育等の新入生ガイダンスを実施している。但し、その内容・方法・力点などは学部毎検討され実施しているため異なっている。

平成18年度は、次の日時に実施した。

○ 平成18年4月7日（金）

学 部	時 間 帯	場 所
医学部・医学科	14:00～15:30	全学共通1C講義室

○ 平成18年4月10日（月）

教育学部	9:00～16:30	教育学部107講義室
地域科学部	9:00～12:00	地域科学部101講義室
医学部・看護学科	9:00～12:00	看護学科講義室（2）
工学部	9:30～11:00	工学部各教室（9学科別）
応用生物科学部	9:00～16:00	応用生物101講義室

新入生ガイダンスに対する理解度のアンケート調査を実施したところ、「理解できた」「だいたい理解できた」が78%、「わからない部分があった」が22%であった。全学生が理解できるよう更なる改善・努力が必要である。

ガイダンスのやり方が学部によって異なっていたため、説明が全ての学生に均一に徹底されていたとは限らなかった。来年度以降はセンター委員が説明する方針としているので、受講方法などについて混乱をなくすることができると考えている。

2. 履修登録制度

学生は、各学期の最初の授業で、授業担当教員に履修申請カードを提出し履修登録を行う。

英語A1・A2は、学部学科別にクラス指定、英語Bと未修外国語Iは、入学時のガイダンスで希望クラスのアンケート調査を行いクラス分けを行っている。

個別科目と総合科目は、最初の授業で履修申請カードを提出させるが、スポーツ・健康科学科目は、受講者人数に制限があり、受講希望者がこれを超える場合は抽選を行う。これ以外の分野においても受講希望者が100人を超える場合は、原則として抽選を行い決定している。即ち、学生の履修希望がそのまま受け入れられない場合もあるが、類似の科目なども用意されており、止むを得ない状況と考えられる。但し、次学期以後に再度申請をした場合（高年次履修）や特殊事情については、苦情相談などの体制も別途用意されている。また、その情態が継続的である場合には開講を増やすことも検討課題となる。

平成18年度前学期の履修申請の日程は表1、1学期に履修できる教養科目の上限は表2のとおりである。

表1

平成18年度前学期の履修申請の日程

期日等	行 事	個別科目・総合科目	既修外国語	未修外国語
4 月 7 日（金）	入学式 学部・学科等別ガイダンス （医・工(夜)） 学部外国人留学生 ガイダンス		学部・学科等別ガイダンス で希望する英語 B のア ンケートを行います。 ※必ずしも希望する英語 B になるとは限りませ ん。	学部・学科等別ガイダンス で希望言語のアンケートを 行います。 ※必ずしも希望する言語に なるとは限りません。
1 0 日（月）	学部・学科別ガイダンス （教・地・看・工(昼)・応生)			
1 1 日（火）				
1 2 日（水）	前学期授業開始	授業でカードを提出 （水曜日の科目分）	英語 B クラス分け発表 （8:30・医(医)・工）	クラス分け発表 （8:30・全学部）
1 3 日（木）		水曜日の科目の受付状 況の発表（12：00）	「英語 A 1」は指定さ れたクラスの授業でカ ードを提出します。	
1 4 日（金）				
1 7 日（月）		授業でカードを提出 （月曜日の科目分）		「未修外国語Ⅰ」は授業で カードを提出しません。（学 部・学科等別ガイダンスで提出 済み） ただし、ドイツ語・フラン ス語の「抽出クラス」では、 要提出。
1 8 日（火）		授業でカードを提出 （火曜日の科目分） 月曜日の科目の受付状 況の発表（12：00） 水曜日の科目の再受付 締切（15：00）	「英語 B」は授業でカ ードを提出しません。 （学部・学科等別ガイダ ンスで提出済み）	
1 9 日（水）		水曜日の科目の再受付結果 発表（8：30） 火曜日の科目の受付状況の 発表（12：00）		
2 0 日（木）				
2 1 日（金）		月・火曜日の科目の再受付 締切（13：00）		
2 4 日（月）		月・火曜日の科目の再受付 結果発表（8：30）		
2 5 日（火）	履修登録、確認・訂正期間			
2 6 日（水）	↓ 17：00 まで	重要！：この期間中に「個人別履修承認科目一覧表」を受け取り、正しく履修登録できたかを必ず確認してください。訂正や不明な点がある場合は、全学共通教育事務室に申し出てください。		
2 7 日（木）				

表2 教養科目の履修制限

学部・学科		教育学部	地域科学部	医学部 (医学科)	医学部 (看護学科)	工学部 (昼間コース)	工学部 (夜間主コース)	応用生物科学部
前学期	全学共通教育科目	18	18	24	20	16	16	16
	学部開講科目	4	2	8	2	4	2	14
後学期	全学共通教育科目	16	18	24	20	16	16	20
	学部開講科目	6	—	4	—	2	—	10

3. 修学指導・学生相談

教養教育推進センターには専任教員がいないため、オフィスアワー・学習相談・助言のための担任制は常時には設定できない状況である。しかし、各学部には、それぞれ指導教員がおり、教養教育から専門教育にわたり相談に応じている。非常勤講師には、最初の授業時に eメールのアドレス等を周知し助言体制をガイダンスするよう依頼している。今年度より、教養教育についての全般的な相談窓口として「意見箱コーナー」を設け、学生の投書とそれに対し即時に返答する体制を取った。

また、各学部や保健管理センター、学務部などの教職員が担当する『キャンパスライフヘルパー制度』があり、健康、修学、履修、進路、友人、課外活動に関することなどの一相談窓口となっている。電子メールでアポイントをとったり、相談できるよう「キャンパスガイド」で案内している。

保健管理センターには、専門医師、臨床心理士と各学部の教員で構成された『学生相談室』があり、健康、精神・衛生などの相談にあたっている。

この他、『セクシュアル・アセスメント相談窓口』があり、WEBページからアクセスできるよう案内している。

4. 成績評価

岐阜大学全学共通教育規則第9条の規定により、「岐阜大学全学共通教育の成績評価に関する申合せ」を定めている。

評価は、A（優）＝80点～100点、B（良）＝70点～79点、C（可）＝60点～69点、D（不可）＝59点以下、×（受講放棄又は受験放棄）と規定している。

これらの成績評価基準は、「全学共通教育履修案内」に明記し、さらに成績評価方法についてもシラバスの科目ごとに明記し、学生全員に冊子を配布し、ホームページにも掲載し周知している。これらの内容は、入学時のガイダンスで説明するとともに初回授業時においても、授業担当教員から、当該科目の成績基準を説明するよう要望している。

成績評価は、筆記、実技、レポート及び授業への出席状況等に基づき4段階評価で

行っている。学生は、総授業時間数の3分の2以上出席しないと受験資格を失うことになっている。

成績評価に対する学生からの異議申立ての制度があり、学生には履修案内で周知している。具体的には、提示された成績評価に対して異議のある場合は、成績評価の提示から1週間以内に申立書を事務室へ提出する。提出された申立書は、授業担当教員が調査のうえ、その結果を文書により事務室へ回答する。事務室は、結果をセンター長に伝え決裁のうえ、学生に回答している。

V 教育環境

教室・教育設備

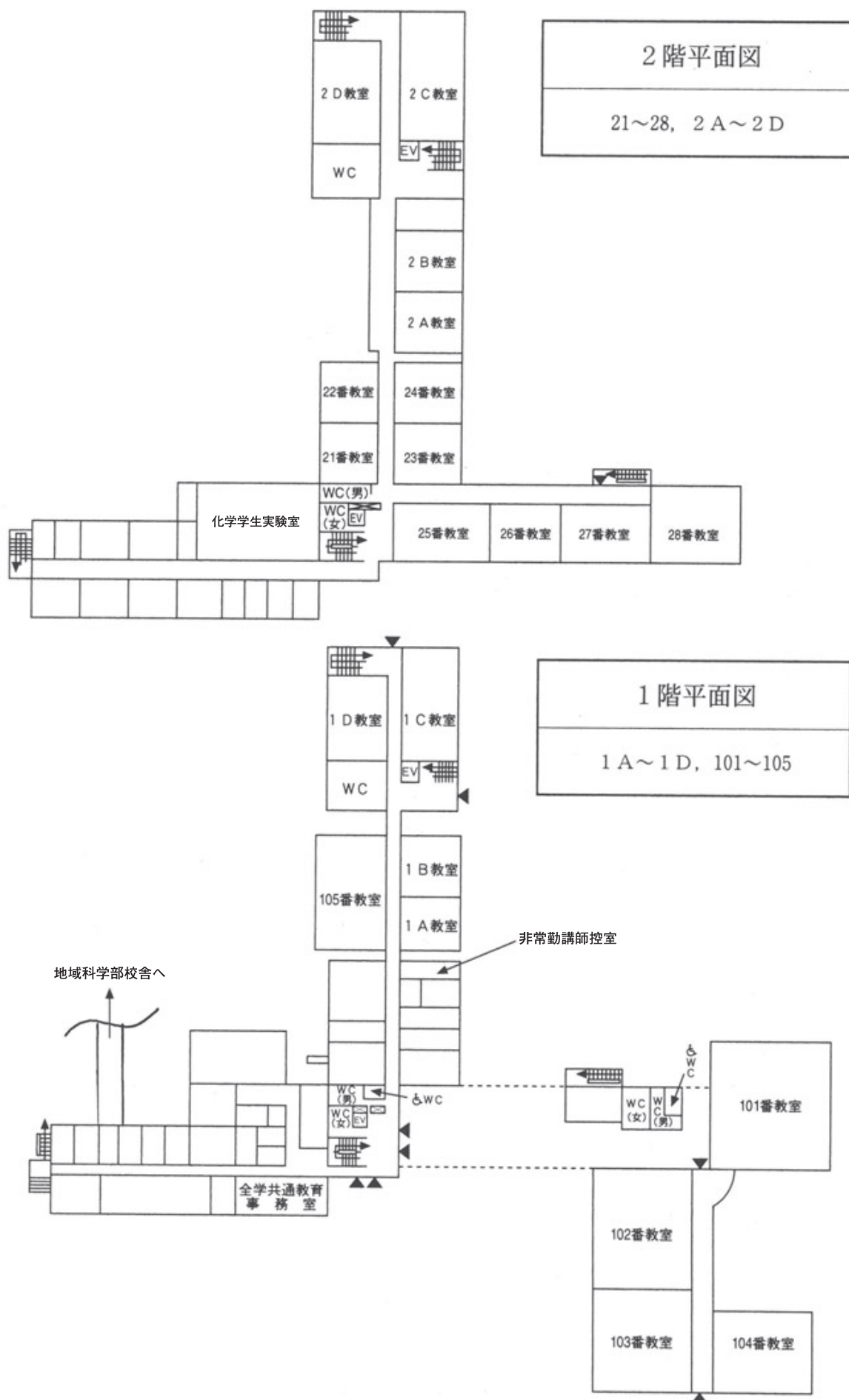
大小33の教室のほか、情報教育演習室、視聴覚室、LL教室及びセミナー室を有し、各講義室には、講義に必要とするプロジェクター等のAV機器、実物投影機を配備するとともに、学内LANの接続を可能とし、教室・教育設備の一層の充実を図るとともに、年度計画により、順次AV機器などの更新を進めているところである。

また、教室の使用にあつては教養科目の授業のみならず、専門科目の授業、留学生の日本語教育などの学習の場として幅広く利用されている。

全学共通教育講義棟教室等配置図は表1、全学共通教育講義棟教室設備表は表2のとおりである。

表 1

◎全学共通教育講義棟教室等配置図



◎全学共通教育講義棟教室等配置図

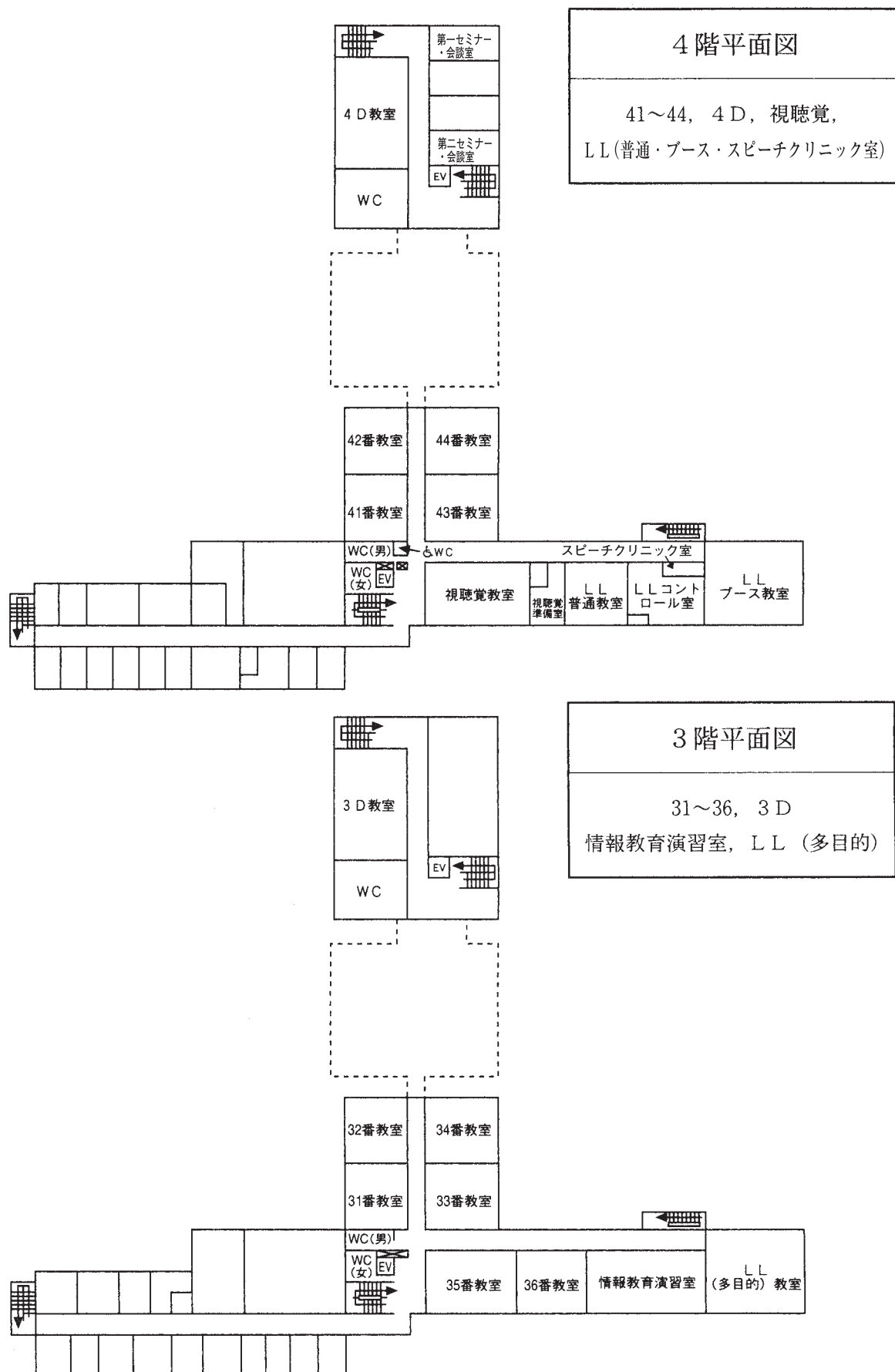


表 2

全学共通教育講義棟教室設備表

	教室 番号	収容 人数	試験 人数	VTR	T V	暗 幕	スク リーン	マイク	カセット デッキ (固定)	テーブ レコーダ (可搬)	CD MD カセット	PC プロ ジェクタ	そ の 他
1 階	101	401	223	VHS・8	6	○	○	◎				○	スライド/ビーム/OHP/CD・MD
	102	250	150	VHS・DVD	4	○	②	◎				○	OHP/実物投影機/CD
	103	203	122	VHS・DVD	4	○	②	◎				○	OHP/実物投影機/CD
	104	210	126	VHS・DVD	4	○	○	◎				○	スライド/OHP/実物投影機/CD
	105	250	150	VHS・DVD	6	○	②	◎	○			○	スライド/実物投影機
	1 A	78	40	VHS・DVD		○	○	○			○	○	実物投影機/CD
	1 B	78	40	VHS・DVD	2	○	○			○		○	
	1 C	120	72	VHS・DVD	4	○	②	■		○		○	LD
	1 D	70	35	VHS・DVD・β	2	○	○		○	○			LD
2 階	2 1	78	40	VHS・DVD	2	○	○				○		OHP(小)
	2 2	78	40	VHS・DVD	2	○	○			○	○		OHP(小)
	2 3	78	40	VHS・DVD	2	○	○			○			
	2 4	78	40	VHS・DVD	2	○	○				○※		※CD・MDのみ(カセットなし)
	2 5	130	82	VHS・DVD・β	4	○	○	■	○	○		○	OHP(小)/LD
	2 6	78	40	VHS・DVD	2	○	○				○	○	OHP(小)
	2 7	130	78	VHS・DVD	2	○	○	■			○	○	OHP(小)/LD
	2 8	156	96	VHS・DVD	4	○	②	■				○	OHP/LD
	2 A	78	40	VHS・DVD		○	○			○		○	実物投影機/CD
	2 B	78	40	VHS・DVD・β	2	○	○			○	○	○	
	2 C	110	66	VHS・DVD・β	4	○	②	■	○	○		○	LD
	2 D	70	35	VHS・DVD	2	○	○		○	○			LD
3 階	3 1	78	40	VHS・DVD	2	○	○				○		OHP(小)
	3 2	78	40	VHS・DVD	2	○	○			○			OHP(小)
	3 3	78	40	VHS・DVD・β	2	○	○			○			
	3 4	78	40	VHS・DVD	2	○	○			○			
	3 5	130	82	VHS・DVD	2	○	○	■				○	OHP(小)/LD
	3 6	78	40	VHS・DVD・β	2	○	○				○		OHP(小)
	情報教育演習	20					○	○					パソコン(19台)
	LL多目的	60	30	VHS・DVD				○	○				パソコン/教材提示装置/LD
	3 D	70	35	VHS・DVD	2	○	○			○			LD
4 階	4 1	78	40	VHS・DVD	2	○	○				○		
	4 2	78	40	VHS・DVD	2	○	○			○			
	4 3	78	40	VHS・DVD・β	2	○	○			○			
	4 4	78	40	VHS・DVD・β	2	○	○			○			
	4 D	70	35	VHS・DVD	2	○	○			○			LD
	視聴覚	132	84	VHS・DVD	4	○	②	■	○			○	OHP/実物投影機
	LLブース	70	70	VHS・β	6	○				○	○		LD
	LL普通	70	35	VHS・DVD	2				○				
	第1セミナー	12	—	VHS	1					○			
	第2セミナー	11	—	VHS	1								

②: 黒板横にもスクリーンあり

◎: ビームマイクとハンドマイク常設(同時使用可)

■: ビームマイクとハンドマイク常設(同時使用不可)

VI 学習支援

学生による授業評価の実施

全学共通教育の授業方法・内容をより一層の充実を図るため、学生による授業評価を実施している。その結果を各教員にフィードバックするとともに、FD研究会を開催し授業改善を行っている。

最近行った「2004年後学期授業評価」と「2005年前学期授業評価」アンケートの結果は、次ページのとおりである。

学生による授業評価で、学生の満足度の高かった授業の上位ベスト10の教員の授業方法、工夫、特徴などを冊子「教養教育：こんな授業を受けたいベスト10集」にまとめ、全教員に配布し授業改善に役立てた。

また、学生による授業評価の自由記述欄を基に、全教員に対し、授業実施のあり方を7項目にまとめた「授業運営についてのお願い」を依頼し、学生に対しては「受講に際しての注意」を履修案内に学生あてメッセージとして掲載し、周知した。

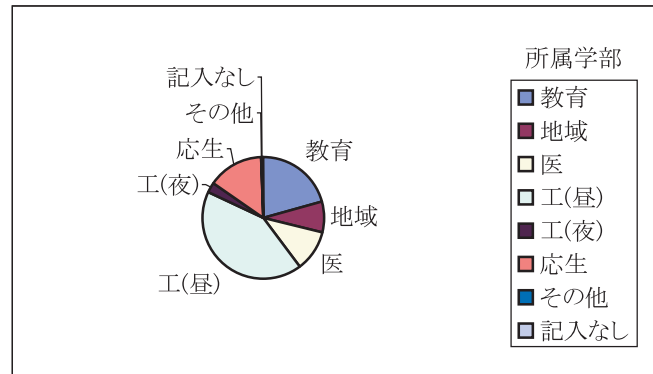
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

調査予定人数 9,150 対象授業数 218 (内、2 授業実施せず。)

回答人数 7,482
回答率 % 81.8

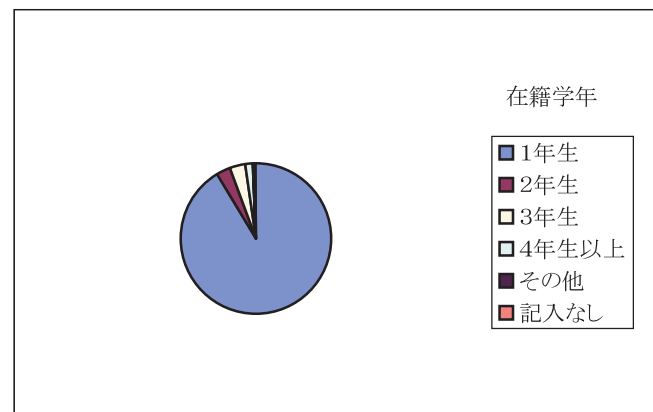
所属学部

	比率%	人数
教育	20.9	1,567
地域	7.8	585
医	10.9	818
工(昼)	42.2	3,154
工(夜)	2.8	211
応生	14.8	1,104
その他	0.1	10
記入なし	0.4	33



在籍学年

	比率%	人数
1 年生	91.3	6,834
2 年生	3.2	239
3 年生	3.2	239
4 年生以上	1.6	123
その他	0.1	11
記入なし	0.5	36



アンケート項目

アンケート項目の回答段階は、「その通りである：5」，「おおむねその通り：4」，「どちらでもない：3」，「おおむね違う：2」，「全く違う：1」とする「5段階評価」。

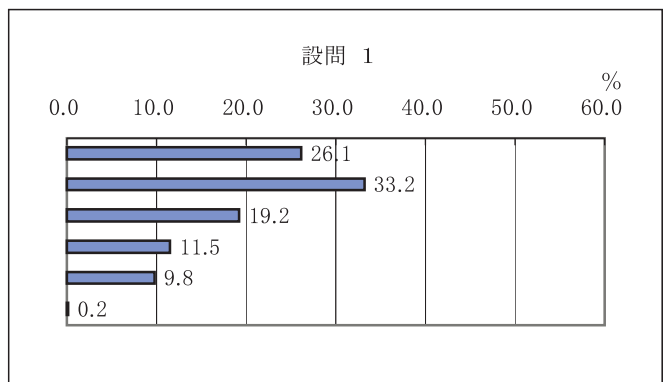
<あなた自身に関する項目>

(1) この授業について、学期の初めにシラバス(授業案内)をよく読んだ。

<前回>

平均値	3.54	3.36
標準偏差	1.26	1.36

(回答段階)	比率%	人数
: 5	26.1	1,954
: 4	33.2	2,483
: 3	19.2	1,439
: 2	11.5	862
: 1	9.8	731
記入なし	0.2	13



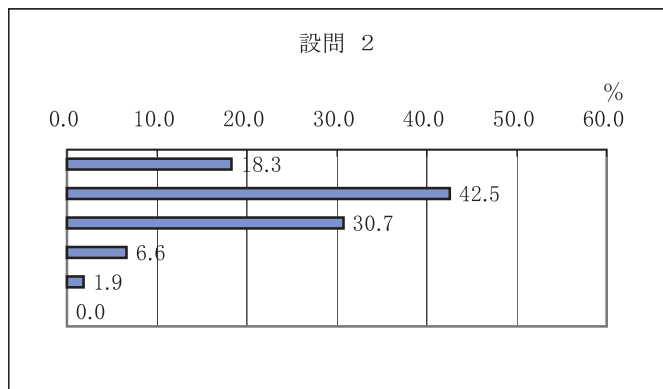
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

(2) この授業を理解するため積極的な努力をした。

〈前回〉

平均値 3.69 **3.42**
標準偏差 1.26 **1.01**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	18.3	1,366
: 4	42.5	3,182
: 3	30.7	2,298
: 2	6.6	493
: 1	1.9	141
記入なし	0.0	2

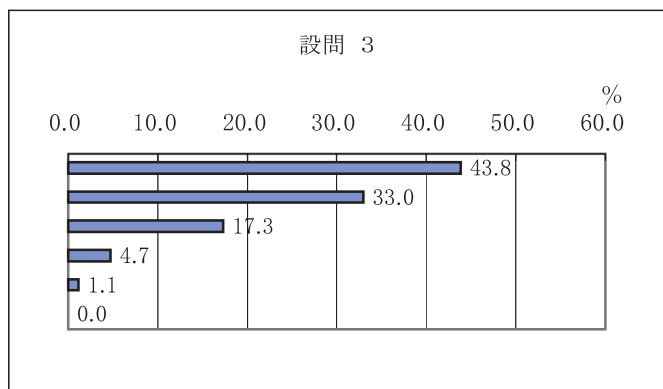


(3) 授業中に私語をしない、携帯電話をかけないといった基本的なエチケットは守った。

〈前回〉

平均値 4.14 **4.13**
標準偏差 0.94 **1.00**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	43.8	3,280
: 4	33.0	2,466
: 3	17.3	1,293
: 2	4.7	355
: 1	1.1	86
記入なし	0.0	2

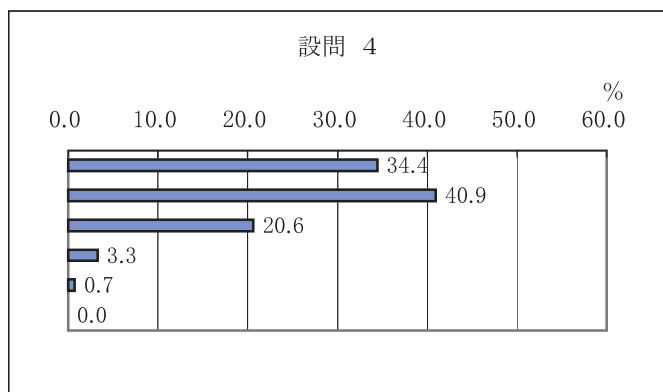


(4) この授業によく出席し、熱心に履修しているので、この授業を正當に評価できる。

〈前回〉

平均値 4.05 **3.95**
標準偏差 0.86 **0.93**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	34.4	2,576
: 4	40.9	3,062
: 3	20.6	1,543
: 2	3.3	246
: 1	0.7	53
記入なし	0.0	2



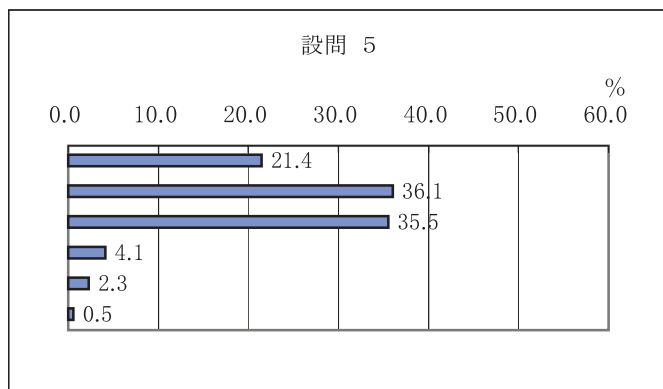
〈授業の内容や教え方に関する項目〉

(5) 授業目標は、シラバス(授業案内)に目標が明確に示されていた。

〈前回〉

平均値 3.71 **3.50**
標準偏差 0.93 **0.94**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	21.4	1,604
: 4	36.1	2,699
: 3	35.5	2,659
: 2	4.1	309
: 1	2.3	171
記入なし	0.5	40



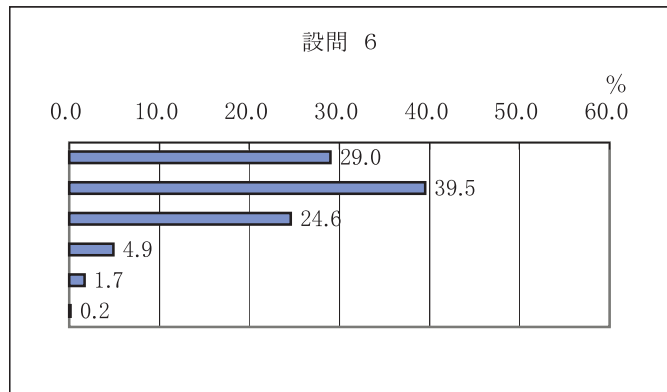
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

- (6) 教科書や補助教材(ビデオ, カセット, プリント等)は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.89 **3.76**
標準偏差 0.94 **0.99**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	29.0	2,171
: 4	39.5	2,957
: 3	24.6	1,843
: 2	4.9	130
: 1	1.7	130
記入なし	0.2	12

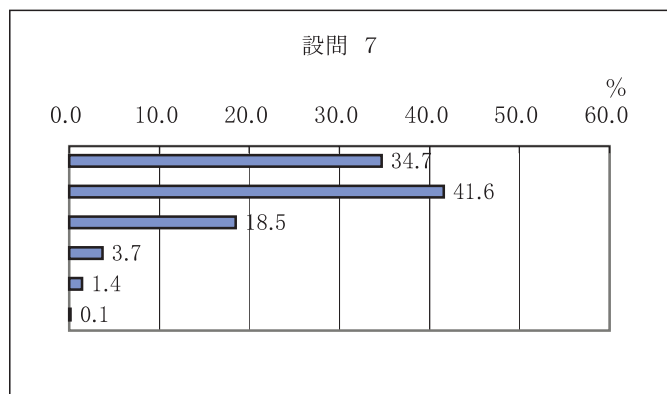


- (7) 授業日数と授業時間は、有効に使用された。

〈前回〉

平均値 4.05 **3.99**
標準偏差 0.90 **0.94**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	34.7	2,596
: 4	41.6	3,111
: 3	18.5	1,383
: 2	3.7	277
: 1	1.4	105
記入なし	0.1	10

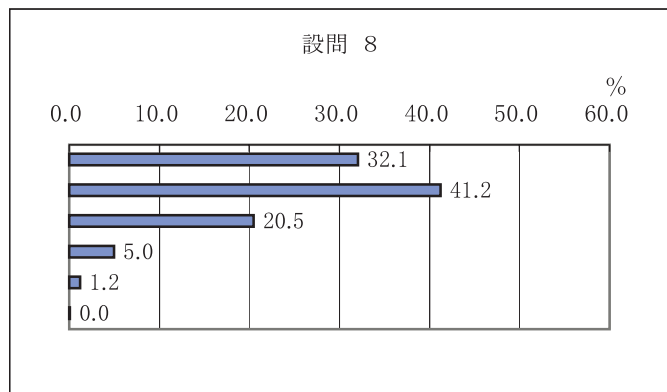


- (8) 授業の進む速さは適切であった。

〈前回〉

平均値 3.98 **3.88**
標準偏差 0.91 **0.97**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	32.1	2,399
: 4	41.2	3,084
: 3	20.5	1,532
: 2	5.0	372
: 1	1.2	92
記入なし	0.0	3

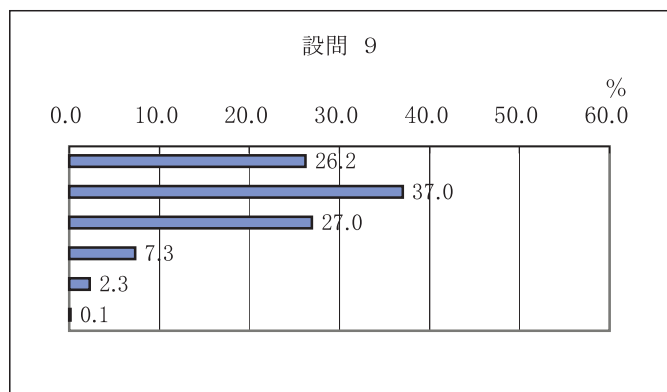


- (9) 学問的概念や専門用語などがわかりやすい説明であった。

〈前回〉

平均値 3.78 **3.65**
標準偏差 0.99 **1.03**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	26.2	1,964
: 4	37.0	2,772
: 3	27.0	2,017
: 2	7.3	548
: 1	2.3	172
記入なし	0.1	9



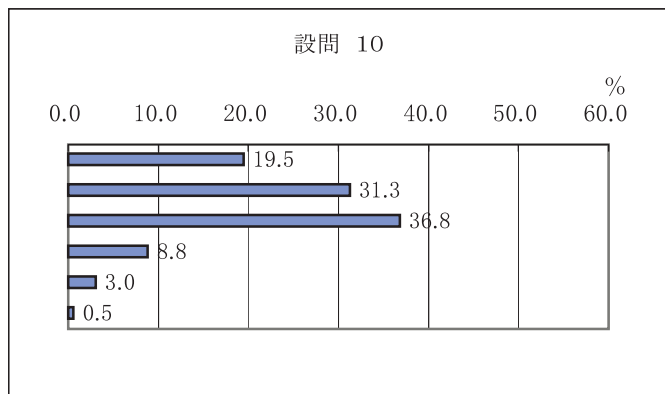
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

(10) 授業中の板書内容は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.56 3.41
標準偏差 1.00 1.02

(回答段階)	比率%	人数
: 5	19.5	1,460
: 4	31.3	2,341
: 3	36.8	2,754
: 2	8.8	659
: 1	3.0	228
記入なし	0.5	40

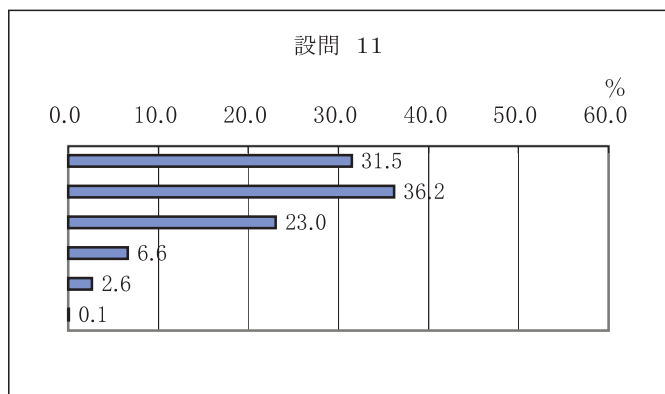


(11) 教員の話し方は聞き取りやすかった。

〈前回〉

平均値 3.87 3.79
標準偏差 1.02 1.06

(回答段階)	比率%	人数
: 5	31.5	2,356
: 4	36.2	2,706
: 3	23.0	1,723
: 2	6.6	496
: 1	2.6	197
記入なし	0.1	4

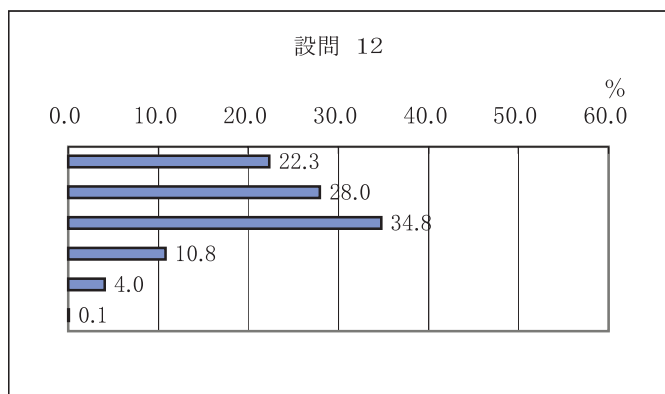


(12) 教員は学生が質問したり意見を述べやすいように配慮した。

〈前回〉

平均値 3.54 3.37
標準偏差 1.07 1.05

(回答段階)	比率%	人数
: 5	22.3	1,672
: 4	28.0	2,093
: 3	34.8	2,601
: 2	10.8	807
: 1	4.0	302
記入なし	0.1	7

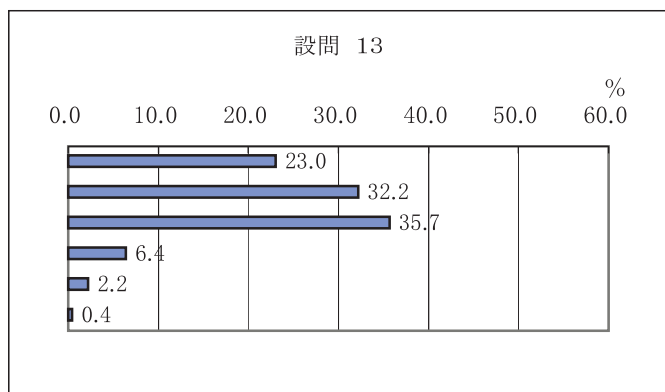


(13) 課題(予習や準備, 宿題等)に対する事前・事後の指導は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.68 3.49
標準偏差 0.97 0.98

(回答段階)	比率%	人数
: 5	23.0	1,723
: 4	32.2	2,412
: 3	35.7	2,669
: 2	6.4	478
: 1	2.2	167
記入なし	0.4	33



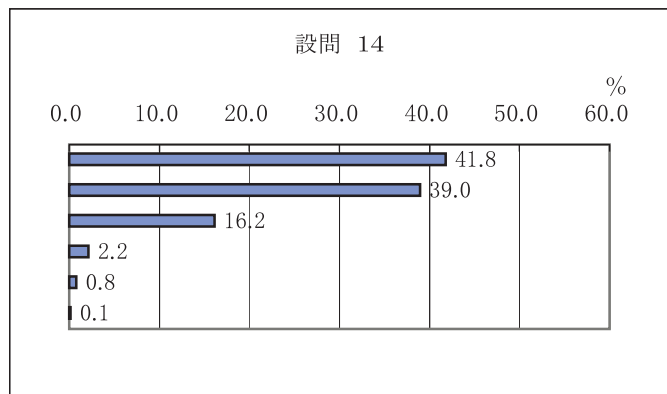
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

(14) 教員は熱意を持って授業を行った。

〈前回〉

平均値 4.19 **4.13**
標準偏差 0.84 **0.88**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	41.8	3,128
: 4	39.0	2,916
: 3	16.2	1,209
: 2	2.2	161
: 1	0.8	60
記入なし	0.1	8



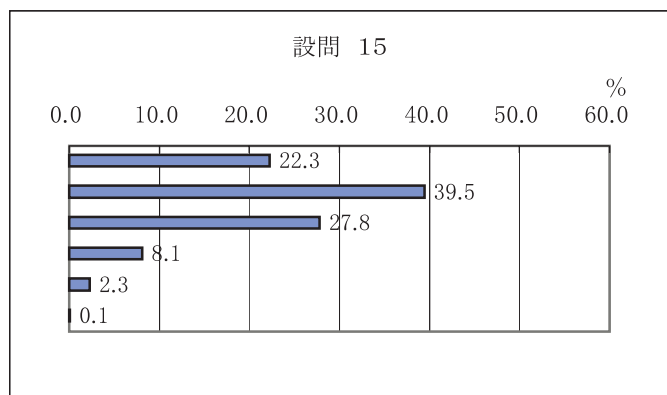
〈授業を受けての感想に関する項目〉

(15) 授業のレベルは自分にとって適切であった。

〈前回〉

平均値 3.71 **3.60**
標準偏差 0.97 **1.01**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	22.3	1,667
: 4	39.5	2,954
: 3	27.8	2,080
: 2	8.1	605
: 1	2.3	171
記入なし	0.1	5

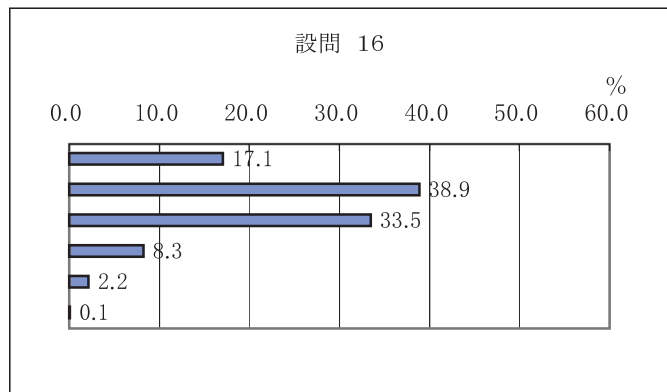


(16) 授業内容で要求される技術・知識を修得できた。

〈前回〉

平均値 3.61 **3.45**
標準偏差 0.94 **0.95**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	17.1	1,278
: 4	38.9	2,912
: 3	33.5	2,506
: 2	8.3	618
: 1	2.2	161
記入なし	0.1	7

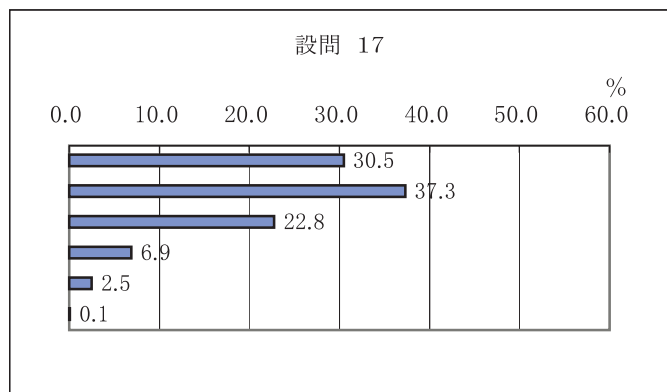


(17) 授業内容は興味が持てるものであった。

〈前回〉

平均値 3.87 **3.74**
標準偏差 1.01 **1.06**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	30.5	2,284
: 4	37.3	2,791
: 3	22.8	1,704
: 2	6.9	514
: 1	2.5	185
記入なし	0.1	4



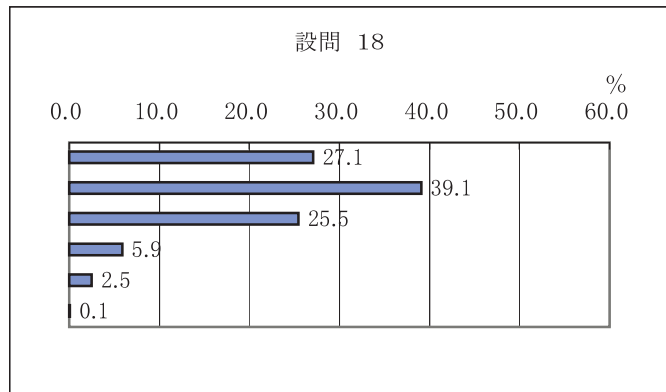
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

(18) この授業によって自分の視野が広がった。

〈前回〉

平均値 3.82 **3.57**
標準偏差 0.98 **1.02**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	27.1	2,024
: 4	39.1	2,924
: 3	25.5	1,905
: 2	5.9	440
: 1	2.5	184
記入なし	0.1	5

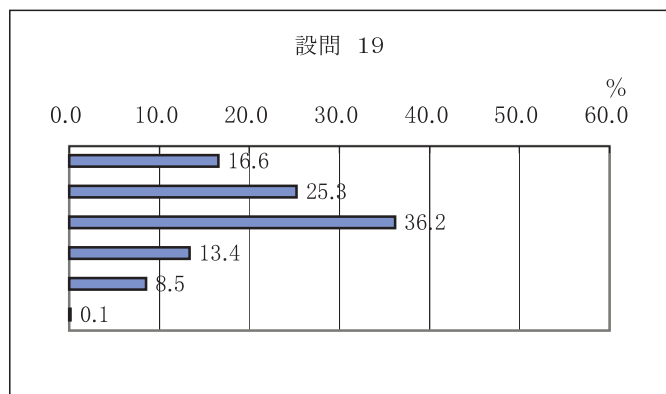


(19) 自分の専門分野で参考になる内容であった。

〈前回〉

平均値 3.28 **3.02**
標準偏差 1.15 **1.15**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	16.6	1,239
: 4	25.3	1,890
: 3	36.2	2,707
: 2	13.4	1,000
: 1	8.5	637
記入なし	0.1	9

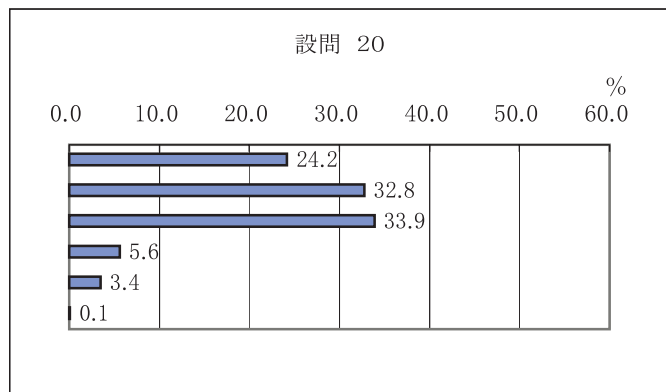


(20) この授業を他の学生や後輩に推薦したい。

〈前回〉

平均値 3.69 **3.35**
標準偏差 1.01 **1.03**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	24.2	1,808
: 4	32.8	2,452
: 3	33.9	2,537
: 2	5.6	420
: 1	3.4	258
記入なし	0.1	7



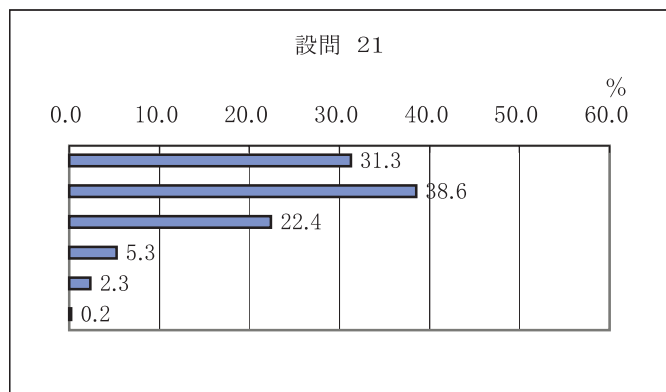
＜授業環境に関する項目＞

(21) 教室の規模、環境、視聴覚設備や運動施設は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.91 **3.81**
標準偏差 0.97 **1.05**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	31.3	2,339
: 4	38.6	2,885
: 3	22.4	1,675
: 2	5.3	396
: 1	2.3	173
記入なし	0.2	14



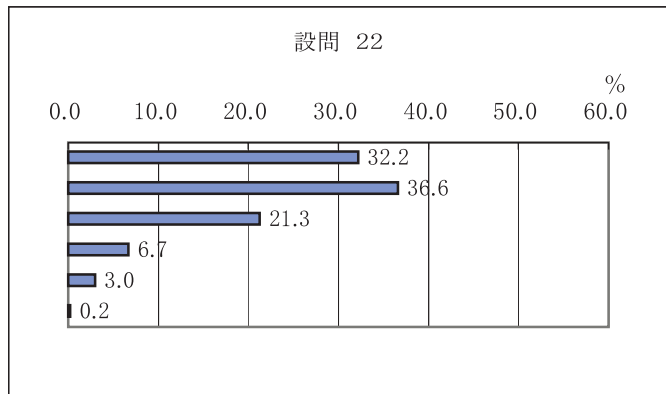
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2004後学期》

(22) この授業の学生数は適切である。

〈前回〉

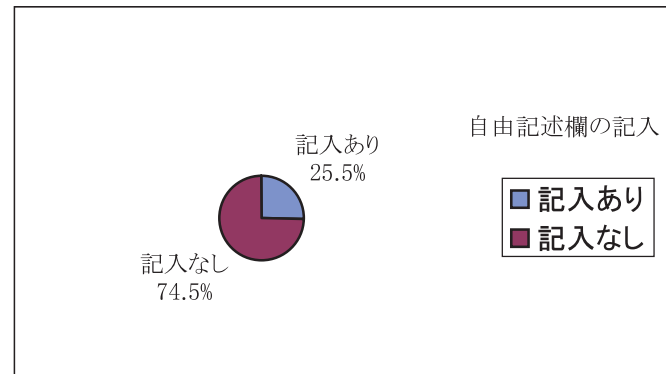
平均値 3.89 3.78
 標準偏差 1.03 1.10

(回答段階)	比率%	人数
: 5	32.2	2,411
: 4	36.6	2,738
: 3	21.3	1,593
: 2	6.7	499
: 1	3.0	224
記入なし	0.2	17



自由記述欄の記入

	比率%	人数
記入あり	25.5	1,909
記入なし	74.5	5,573



前回との平均値比較表

アンケート項目	2004後・a	2000後・b	差・ a-b
<あなた自身に関する項目>			
この授業について、学期の初めにシラバス(授業案内)をよく読んだ。	3.54	3.36	0.18
この授業を理解するため積極的な努力をした。	3.69	3.42	0.27
授業中に私語をしない、携帯電話をかけないといった基本的なエチケットは守った。	4.14	4.13	0.01
この授業によく出席し、熱心に履修しているので、この授業を正當に評価できる。	4.05	3.95	0.10
<授業の内容や教え方に関する項目>			
授業目標は、シラバス(授業案内)に目標が明確に示されていた。	3.71	3.50	0.21
教科書や補助教材(ビデオ、カセット、プリント等)は適切であった。	3.89	3.76	0.13
授業日数と授業時間は、有効に使用された。	4.05	3.99	0.06
授業の進む速さは適切であった。	3.98	3.88	0.10
学問的概念や専門用語などがわかりやすい説明であった。	3.78	3.65	0.13
授業中の板書内容は適切であった。	3.56	3.41	0.15
教員の話し方は聞き取りやすかった。	3.87	3.79	0.08
教員は学生が質問したり意見を述べやすいように配慮した。	3.54	3.37	0.17
課題(予習や準備、宿題等)に対する事前・事後の指導は適切であった。	3.68	3.49	0.19
教員は熱意を持って授業を行った。	4.19	4.13	0.06
<授業を受けての感想に関する項目>			
授業のレベルは自分にとって適切であった。	3.71	3.60	0.11
授業内容で要求される技術・知識を修得できた。	3.61	3.45	0.16
授業内容は興味を持てるものであった。	3.87	3.74	0.13
この授業によって自分の視野が広がった。	3.82	3.57	0.25
自分の専門分野で参考になる内容であった。	3.28	3.02	0.26
この授業を他の学生や後輩に推薦したい。	3.69	3.35	0.34
教室の規模、環境、視聴覚設備や運動施設は適切であった。	3.91	3.81	0.10
この授業の学生数は適切である。	3.89	3.78	0.11
総平均			
	3.79	3.64	0.15

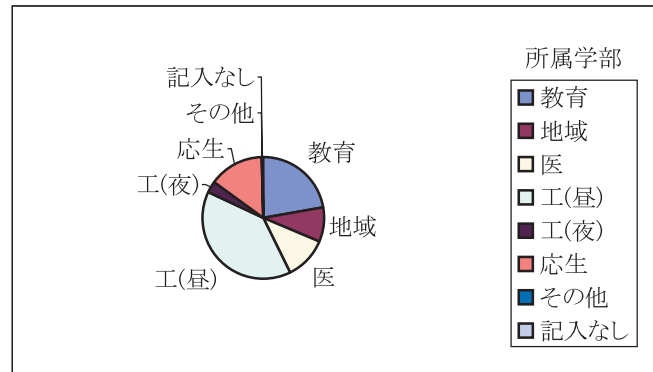
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

調査予定人数 10,209 対象授業数 224 (内、7 授業実施せず。)

回答人数 8,087
回答率 % 79.2%

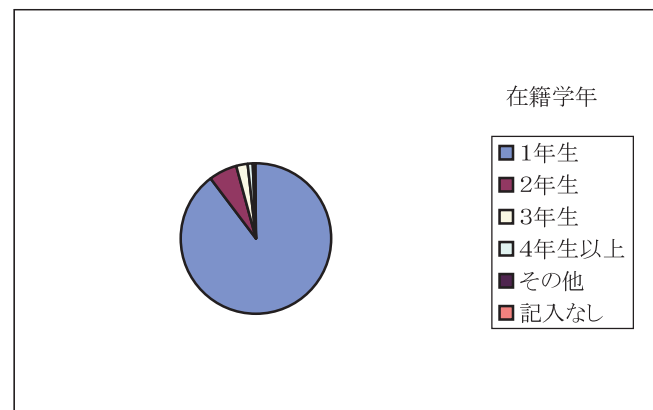
所属学部

	比率%	人数
教育	22.2	1,799
地域	9.2	747
医	11.4	922
工(昼)	39.1	3,161
工(夜)	2.9	234
応生	14.7	1,191
その他	0.1	9
記入なし	0.3	24



在籍学年

	比率%	人数
1 年生	89.8	7,266
2 年生	6.1	494
3 年生	2.3	186
4 年生以上	1.2	99
その他	0.2	13
記入なし	0.4	29



アンケート項目

アンケート項目の回答段階は、「その通りである：5」，「おおむねその通り：4」，「どちらでもない：3」，「おおむね違う：2」，「全く違う：1」とする「5段階評価」。

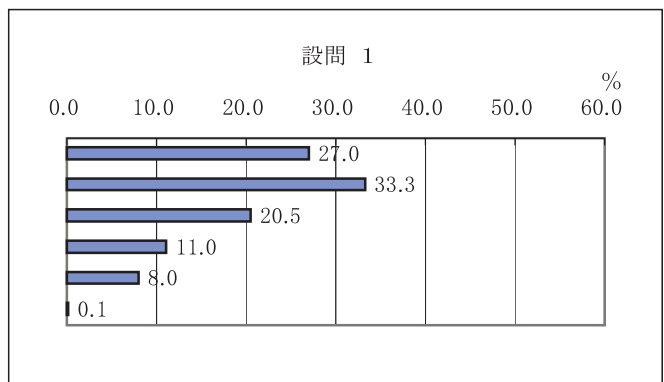
<あなた自身に関する項目>

(1) この授業について、学期の初めにシラバス(授業案内)をよく読んだ。

<前回>

平均値	3.60	3.35
標準偏差	1.22	1.33

(回答段階)	比率%	人数
: 5	27.0	2,186
: 4	33.3	2,690
: 3	20.5	1,657
: 2	11.0	893
: 1	8.0	649
記入なし	0.1	12



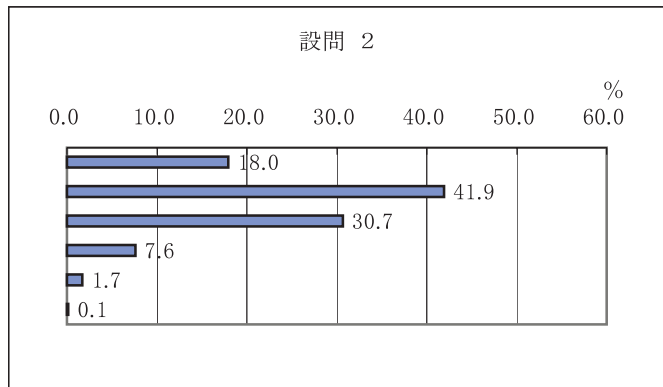
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

(2) この授業を理解するため積極的な努力をした。

〈前回〉

平均値 3.67 **3.44**
標準偏差 0.91 **1.00**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	18.0	1,452
: 4	41.9	3,389
: 3	30.7	2,483
: 2	7.6	616
: 1	1.7	138
記入なし	0.1	9

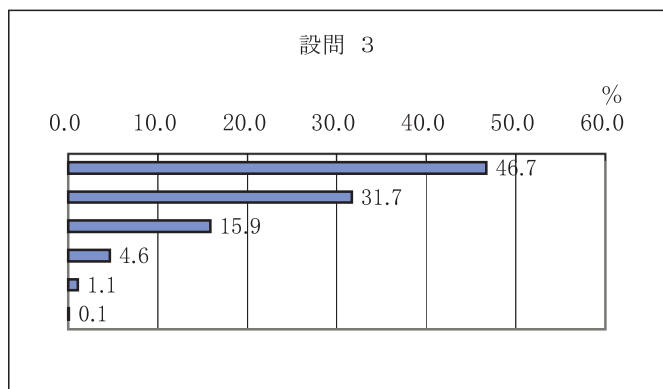


(3) 授業中に私語をしない、携帯電話をかけないといった基本的なエチケットは守った。

〈前回〉

平均値 4.18 **4.13**
標準偏差 0.93 **1.01**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	46.7	3,775
: 4	31.7	2,561
: 3	15.9	1,283
: 2	4.6	375
: 1	1.1	85
記入なし	0.1	8

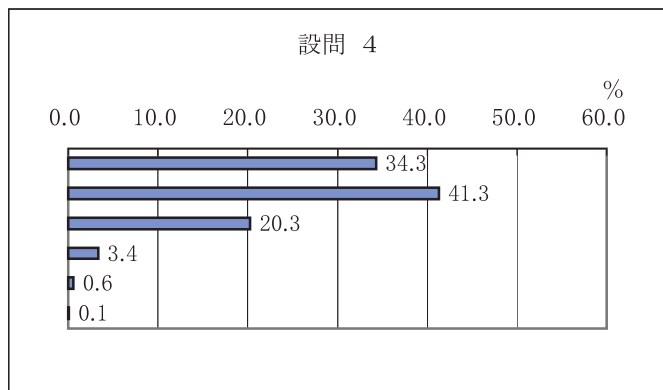


(4) この授業によく出席し、熱心に履修しているので、この授業を正當に評価できる。

〈前回〉

平均値 4.06 **3.94**
標準偏差 0.86 **0.94**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	34.3	2,776
: 4	41.3	3,343
: 3	20.3	1,639
: 2	3.4	272
: 1	0.6	49
記入なし	0.1	8



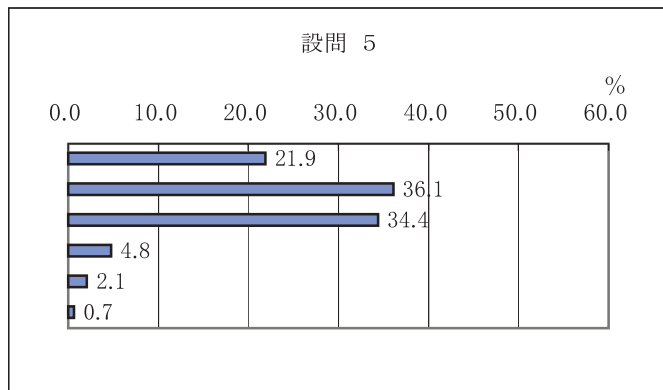
〈授業の内容や教え方に関する項目〉

(5) 授業目標は、シラバス(授業案内)に目標が明確に示されていた。

〈前回〉

平均値 3.72 **3.47**
標準偏差 0.93 **0.94**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	21.9	1,772
: 4	36.1	2,922
: 3	34.4	2,785
: 2	4.8	387
: 1	2.1	167
記入なし	0.7	54



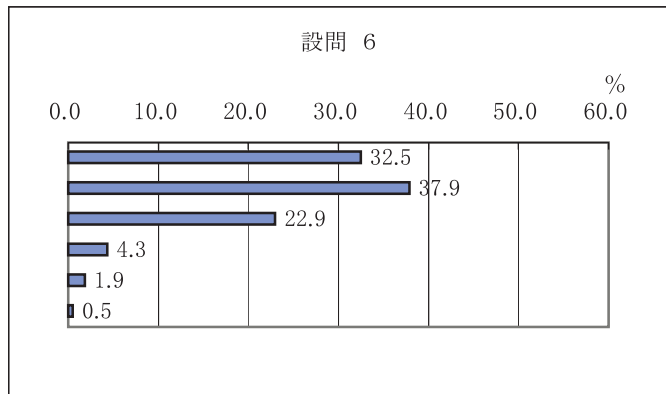
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

- (6) 教科書や補助教材(ビデオ, カセット, プリント等)は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.95 **3.69**
標準偏差 0.95 **1.00**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	32.5	2,626
: 4	37.9	3,066
: 3	22.9	1,855
: 2	4.3	350
: 1	1.9	152
記入なし	0.5	38

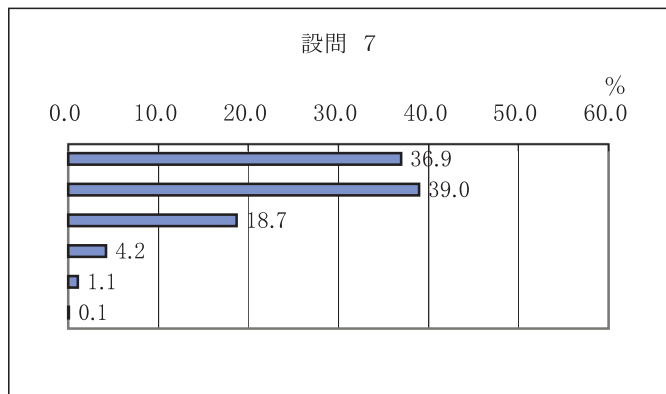


- (7) 授業日数と授業時間は、有効に使用された。

〈前回〉

平均値 4.07 **3.88**
標準偏差 0.91 **0.98**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	36.9	2,988
: 4	39.0	3,151
: 3	18.7	1,510
: 2	4.2	342
: 1	1.1	88
記入なし	0.1	8

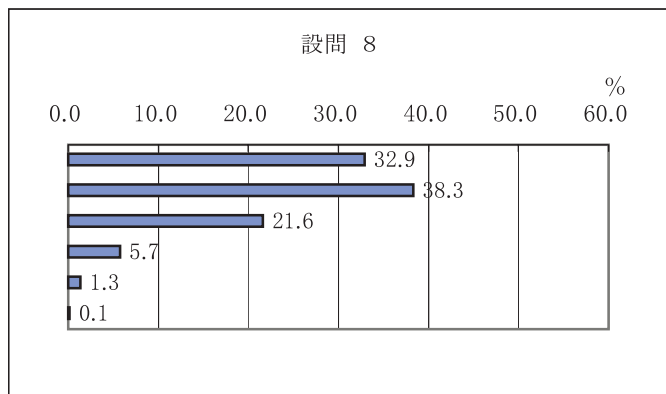


- (8) 授業の進む速さは適切であった。

〈前回〉

平均値 3.96 **3.76**
標準偏差 0.95 **1.02**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	32.9	2,662
: 4	38.3	3,098
: 3	21.6	1,746
: 2	5.7	464
: 1	1.3	107
記入なし	0.1	10

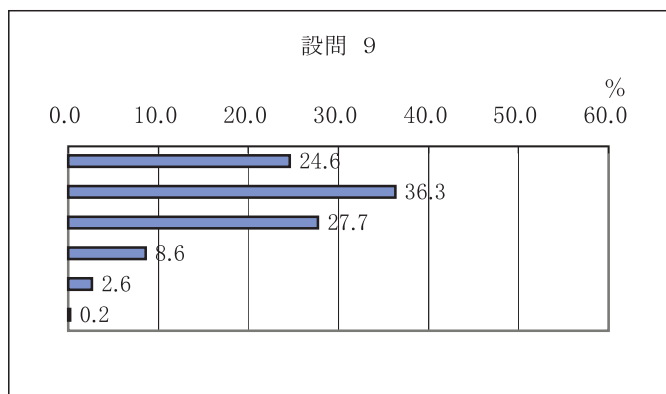


- (9) 学問的概念や専門用語などがわかりやすい説明であった。

〈前回〉

平均値 3.72 **3.55**
標準偏差 1.01 **1.05**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	24.6	1,989
: 4	36.3	2,938
: 3	27.7	2,241
: 2	8.6	693
: 1	2.6	211
記入なし	0.2	15



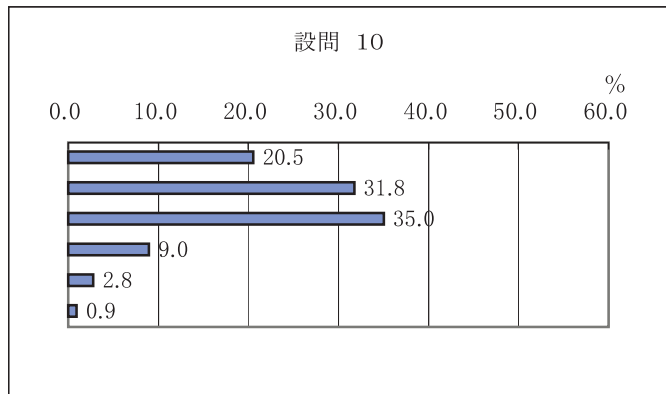
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

(10) 授業中の板書内容は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.59 **3.39**
標準偏差 1.00 **1.04**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	20.5	1,659
: 4	31.8	2,569
: 3	35.0	2,834
: 2	9.0	726
: 1	2.8	226
記入なし	0.9	73

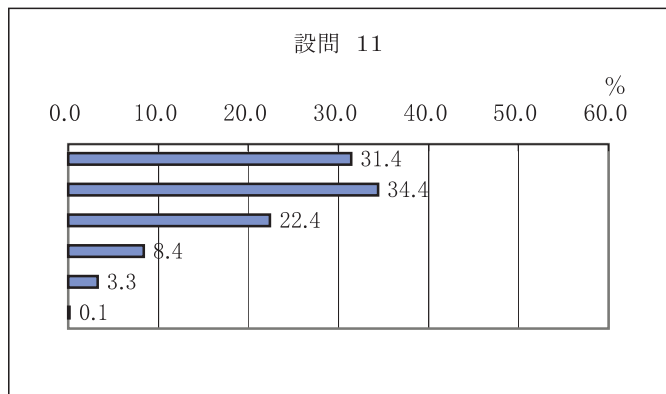


(11) 教員の話し方は聞き取りやすかった。

〈前回〉

平均値 3.82 **3.67**
標準偏差 1.07 **1.11**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	31.4	2,542
: 4	34.4	2,782
: 3	22.4	1,811
: 2	8.4	677
: 1	3.3	265
記入なし	0.1	10

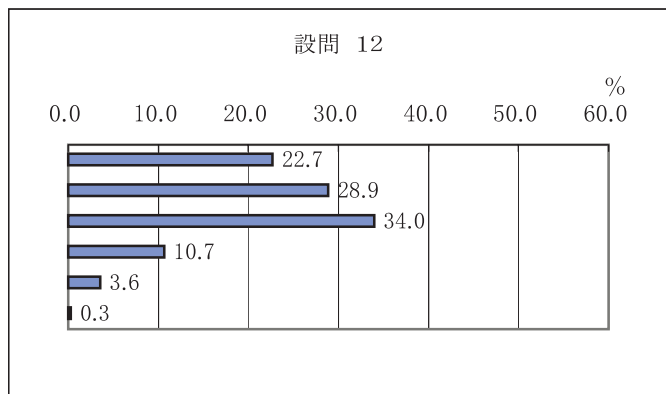


(12) 教員は学生が質問したり意見を述べやすいように配慮した。

〈前回〉

平均値 3.56 **3.32**
標準偏差 1.06 **1.08**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	22.7	1,832
: 4	28.9	2,334
: 3	34.0	2,747
: 2	10.7	864
: 1	3.6	289
記入なし	0.3	21

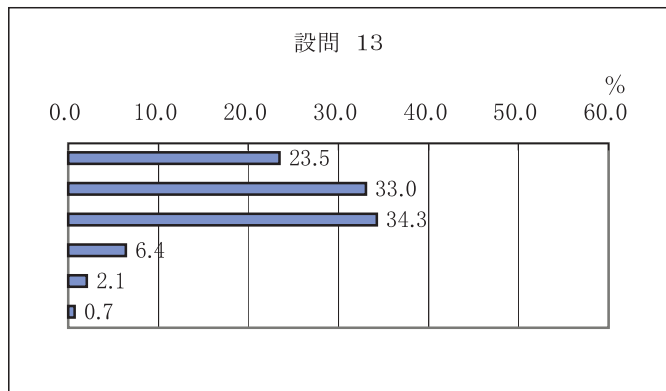


(13) 課題(予習や準備, 宿題等)に対する事前・事後の指導は適切であった。

〈前回〉

平均値 3.70 **3.46**
標準偏差 0.97 **0.98**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	23.5	1,899
: 4	33.0	2,672
: 3	34.3	2,772
: 2	6.4	520
: 1	2.1	169
記入なし	0.7	55



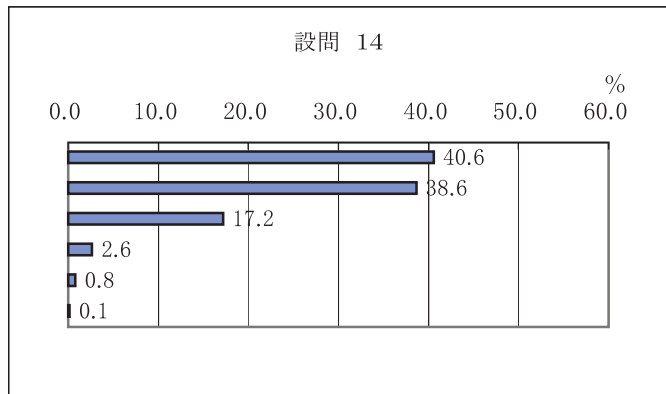
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

(14) 教員は熱意を持って授業を行った。

〈前回〉

平均値 4.16 4.01
標準偏差 0.85 0.92

(回答段階)	比率%	人数
: 5	40.6	3,283
: 4	38.6	3,125
: 3	17.2	1,391
: 2	2.6	214
: 1	0.8	62
記入なし	0.1	12



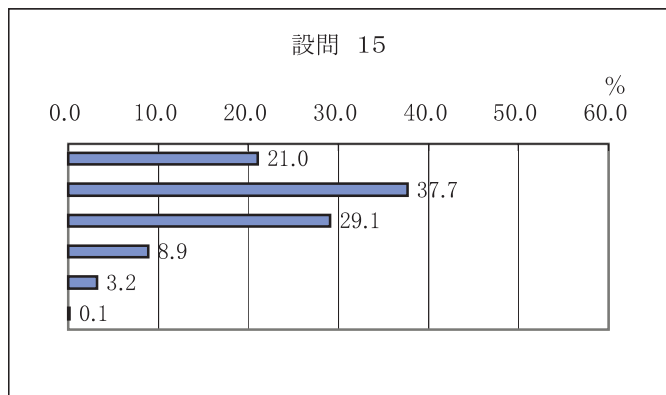
〈授業を受けての感想に関する項目〉

(15) 授業のレベルは自分にとって適切であった。

〈前回〉

平均値 3.65 3.51
標準偏差 1.01 1.02

(回答段階)	比率%	人数
: 5	21.0	1,699
: 4	37.7	3,047
: 3	29.1	2,354
: 2	8.9	719
: 1	3.2	257
記入なし	0.1	11

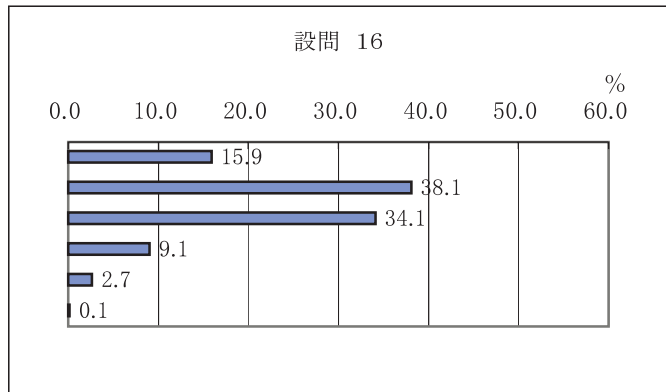


(16) 授業内容で要求される技術・知識を修得できた。

〈前回〉

平均値 3.56 3.37
標準偏差 0.95 0.96

(回答段階)	比率%	人数
: 5	15.9	1,289
: 4	38.1	3,082
: 3	34.1	2,757
: 2	9.1	733
: 1	2.7	215
記入なし	0.1	11

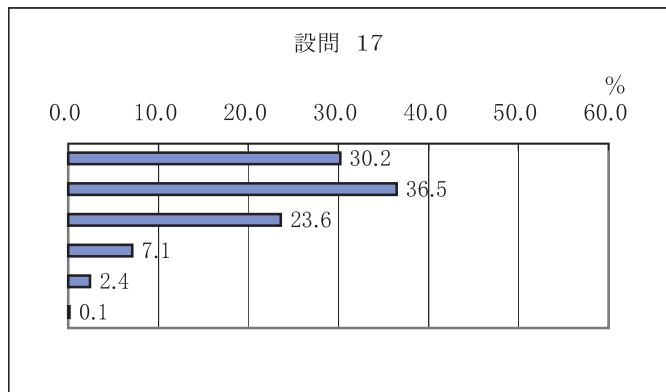


(17) 授業内容は興味が持てるものであった。

〈前回〉

平均値 3.85 3.69
標準偏差 1.01 1.07

(回答段階)	比率%	人数
: 5	30.2	2,444
: 4	36.5	2,952
: 3	23.6	1,907
: 2	7.1	576
: 1	2.4	198
記入なし	0.1	10



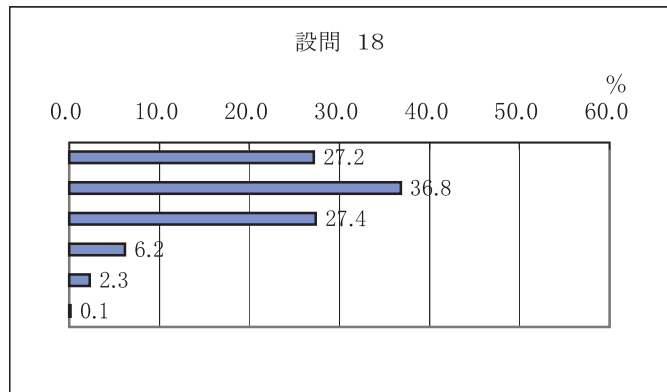
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

(18) この授業によって自分の視野が広がった。

〈前回〉

平均値 3.81 **3.60**
標準偏差 0.98 **1.02**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	27.2	2,198
: 4	36.8	2,978
: 3	27.4	2,215
: 2	6.2	501
: 1	2.3	185
記入なし	0.1	10

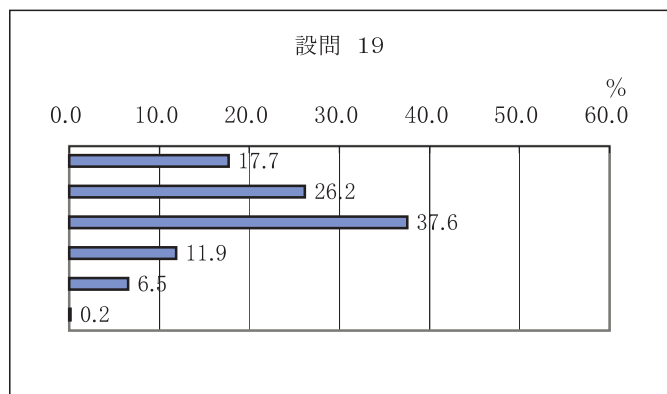


(19) 自分の専門分野で参考になる内容であった。

〈前回〉

平均値 3.37 **3.15**
標準偏差 1.10 **1.16**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	17.7	1,431
: 4	26.2	2,117
: 3	37.6	3,038
: 2	11.9	961
: 1	6.5	527
記入なし	0.2	13

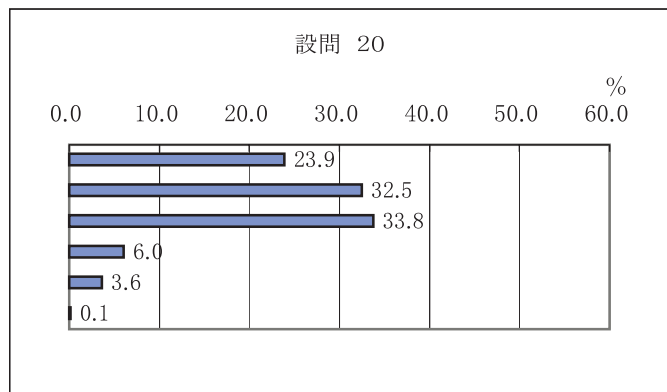


(20) この授業を他の学生や後輩に推薦したい。

〈前回〉

平均値 3.67 **3.44**
標準偏差 1.02 **1.04**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	23.9	1,934
: 4	32.5	2,629
: 3	33.8	2,732
: 2	6.0	487
: 1	3.6	294
記入なし	0.1	11



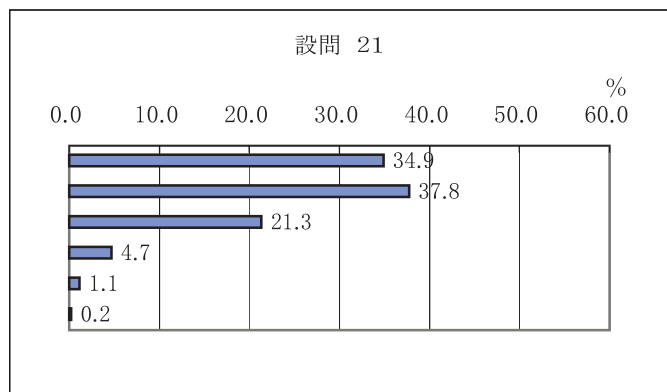
〈授業環境に関する項目〉

(21) 教室の規模、環境、視聴覚設備や運動施設は適切であった。

〈前回〉

平均値 4.01 **3.72**
標準偏差 0.92 **1.10**

(回答段階)	比率%	人数
: 5	34.9	2,820
: 4	37.8	3,054
: 3	21.3	1,723
: 2	4.7	381
: 1	1.1	90
記入なし	0.2	19



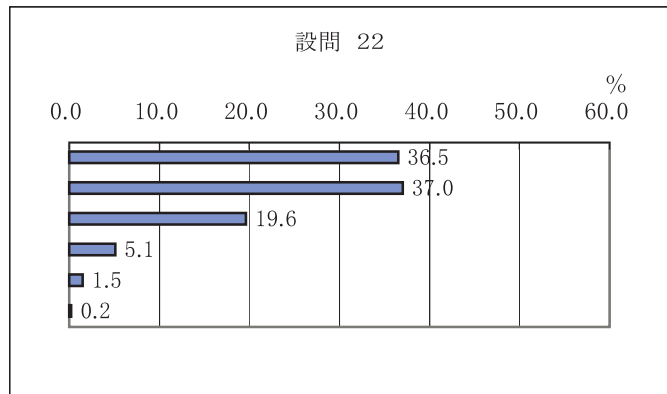
学生による授業評価・アンケート《集計結果・2005前学期》

(22) この授業の学生数は適切である。

〈前回〉

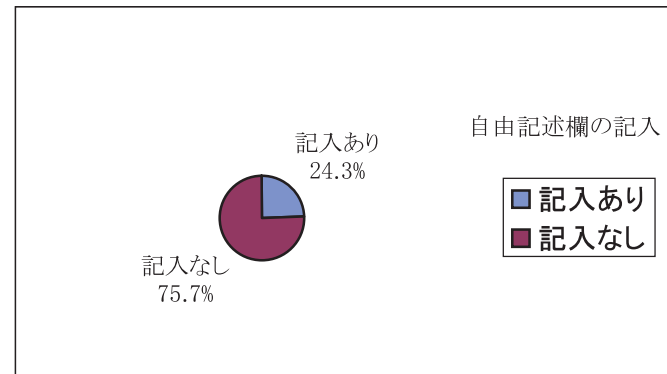
平均値 4.02 3.77
 標準偏差 0.95 1.08

(回答段階)	比率%	人数
: 5	36.5	2,954
: 4	37.0	2,994
: 3	19.6	1,588
: 2	5.1	413
: 1	1.5	119
記入なし	0.2	19



自由記述欄の記入

	比率%	人数
記入あり	24.3	1,967
記入なし	75.7	6,120



前回(同学期)との平均値比較表

アンケート項目	2005前・a	2001前・b	差・ a-b
<あなた自身に関する項目>			
この授業について、学期の初めにシラバス(授業案内)をよく読んだ。	3.60	3.35	0.25
この授業を理解するため積極的な努力をした。	3.67	3.44	0.23
授業中に私語をしない、携帯電話をかけないといった基本的なエチケットは守った。	4.18	4.13	0.05
この授業によく出席し、熱心に履修しているので、この授業を正當に評価できる。	4.06	3.94	0.12
<授業の内容や教え方に関する項目>			
授業目標は、シラバス(授業案内)に目標が明確に示されていた。	3.72	3.47	0.25
教科書や補助教材(ビデオ、カセット、プリント等)は適切であった。	3.95	3.69	0.26
授業日数と授業時間は、有効に使用された。	4.07	3.88	0.19
授業の進む速さは適切であった。	3.96	3.76	0.20
学問的概念や専門用語などがわかりやすい説明であった。	3.72	3.55	0.17
授業中の板書内容は適切であった。	3.59	3.39	0.20
教員の話し方は聞き取りやすかった。	3.82	3.67	0.15
教員は学生が質問したり意見を述べやすいように配慮した。	3.56	3.32	0.24
課題(予習や準備、宿題等)に対する事前・事後の指導は適切であった。	3.70	3.46	0.24
教員は熱意を持って授業を行った。	4.16	4.01	0.15
<授業を受けての感想に関する項目>			
授業のレベルは自分にとって適切であった。	3.65	3.51	0.14
授業内容で要求される技術・知識を修得できた。	3.56	3.37	0.19
授業内容は興味を持てるものであった。	3.85	3.69	0.16
この授業によって自分の視野が広がった。	3.81	3.60	0.21
自分の専門分野で参考になる内容であった。	3.37	3.15	0.22
この授業を他の学生や後輩に推薦したい。	3.67	3.44	0.23
教室の規模、環境、視聴覚設備や運動施設は適切であった。	4.01	3.72	0.29
この授業の学生数は適切である。	4.02	3.77	0.25
総平均			
	3.80	3.61	0.20

「授業の運営についてのお願い」

1. 教員の態度について

◎ 始めに、少数の教員だと推察されますが、「教養教育など無意味」とか「やりたくない、つまらない」という言葉や態度を示される教員が居られようで、そうした言葉や態度に学生は非常に強い嫌悪感を示しています。「教員」である以上、どんな授業に対しても誠意ある取り組みをするのが務めであると思います。

◎ また、これも少数だと信じますが、教員の「権威的な態度」「学生を小馬鹿にしている態度」「独りよがり」に対する嫌悪感も多く寄せられています。学生は「初学者」なので「知らなくて当たり前」なのだと考えてやってください。

2. 授業のあり方について

◎ 世間一般には「面白い授業」をすることが求められているかのような、また「学生はお客様」と見なすことが求められているような報道が為されていますが、学生アンケートの評価の結果や自由記述をみる限りそうした見方は当てはまりません。

確かに「勉学に意欲のない学生」「単位目当て」の学生もいることは事実ですが、教員はそうした学生に「こびを売る」必要はなく、「勉学に意欲のある学生」を対象に授業を構成していくべきで、それが求められていることだと評価結果も示しています。

◎ 学生は「教員自身が熱を入れている」テーマについて、「新しい資料」に基づき、「身近な事例」から「本質的な思考」へと、「平易な言い方」で、「熱意をもって」講義し導いてくれることを望んでいます。とりわけ「教員の熱意」が伝わってくる授業が高く評価されていることが明確でした。

◎ さらに「何を伝えたいのか、何を教えたいのか」というメッセージが明確な授業を高く評価しています。「難しいことを難しく話すことは研究者なら誰でもできる。それを初学者にもわかり易く平易に話せて初めて“教員”といえる」と考えるべきでしょう。

◎ また勉学に意欲のある学生は、そうではない仲間に対して非常に厳しい感情を持っています。私語やよそ事をしている学生への「教員の厳しい態度」を望んでいます。

3. テーマについて

◎ 学生は、伝統的なものであれ今日的問題であれ「専門的なテーマ」であることを望んでおり、世間一般に言われるような「若者に面白そうなテーマ」にはほとんどこだわっ

てはいいないことが判明しました。ただしむしろ、レベルは「専門研究者向け」ではなく、「幅広い思考を形成するための興味・関心の喚起と基礎知識」「専門への導入」のレベルです。

4．授業準備

◎ 学生は「シラバス」の充実を望んでいます。授業の「イメージ」がわくように、とりわけ、難しい要望ですが「レベル」が明確に示されていることを望んでいます。

◎ 資料については、コピーにせよプリントにせよスライドにせよ、「最新の資料・情報」を、「簡潔に」、「整理されて」、「汚れない」、「分かり易いもの」を望んでいます。

5．授業運営

◎ 多くの学生は「真率・まじめ」な授業運営を望んでおり、「ユーモアだの冗談だの面白可笑しい授業」など全く望んでいないことが学生の授業評価結果や自由記述からはっきりしました。むしろ「厳しくても熱心で分かり易い」授業運営を望んでいます。

◎ また教員の「遅刻」「休講」についてのクレームが多いです。とりわけ「無断休講」と「授業時間を超えた引き延ばし(次ぎの授業に遅れる)」には強い嫌悪感を示しています。

◎ 「板書」についてもクレームが多く、「丁寧に大きな字」で書くことが要望されます。

◎ 「声」についてもクレームが多く、「大きな声で(大教室ではマイクを用い)」「ゆっくりと」「メリハリをつけ」「ポイントをはっきり」話すことが必要ようです。

◎ 多くの学生が「私語」や「よそ事」への注意をきちんとして欲しいと要望しています。教員としてはいちいち注意するのも煩わしいと思われるかも知れませんが、再度の注意にもかかわらず止まないときには「退席」、甚だしい時には「単位の不授」を言い渡してもやむを得ないと考えています。このことは学生にも文書で注意します。

6．試験・評価について

◎ シラバスに試験や評価の方法・基準を明確に示し、変更のないことを要望しています。特に無断での変更は非常に強い拒否反応が寄せられています。

◎ 試験時の「カンニングの見逃し」のクレームが多いです。厳正を心掛けてください。

7．クラス規模について

◎ 聴講者数が100名を超える大規模クラスは、一方的授業になったり、教室の条件も悪く、また雰囲気も悪いためか全体的に「評価が低い」という分析結果がでました。また学生のマスプロ授業に対する批判も数多く寄せられています。そこで100人超のクラスは原則として作らないという方針を出しました。

この具体的な制限の仕方については、全学的な教育体制の抜本的改革が為されるまでは教員各位の協力が欠かせません。よろしくご協力ください。

「受講に際しての注意」

1. 受講選択

受講にさいしてはとにかく「勉強したいテーマ」の授業を選ぶようにし、「単位目当て」「時間割の都合」などで授業を選ぶということはないように努力してください。

「何をどんな動機で選ぼうが学生の自由」だという声もありますが、「良い授業」にしていくように教員・学生双方に助言するのは「大学としての義務」なのでそうした指導が為されると考えていてください。

2. 私語の厳禁

多くの学生からこの「私語」へのクレームが寄せられており「授業妨害」であるとしています。また「話しかけられる」ことを「被害者」としています。

従ってこれについては、教員には先ず「注意」をするように要望しておきますが、再度の注意にもかかわらずそれでも止まない時には「退席」が命じられたり、さらにはなはだしい時には「単位の不授」が言い渡されたり、あるいは全体的に教室がうるさいときには「授業の取りやめ」もあり得ると考えてください。

3. 「よそ事」の厳禁

授業にかかわりのない行為、たとえば「他の本を読んで」いたり、「携帯メールを打って」いたり、「寝て」いたり、「パンなどを食べていたり」といった行為は「教室の雰囲気を壊す」として多くのクレームが寄せられています。

実際これは他方で「授業への参加を拒否」している態度と言えますので、先ず教員には「注意」をするように要望しておきますが、それでもこの行為を繰り返した時には「退席」、なはだしい時には「単位の不授」が言い渡されても仕方がないと考えてください。

なお、「授業そのものに不満」がある場合には、他の学生の邪魔にならないようにしているか、あるいは教員の許可をとった上で「退席」し、その後に当該の教員や大学当局に不満解消のための要望を申し入れてください。

4. 遅刻と無断での途中退席の厳禁

これは「何時までも教室が落ち着かない」ということで「授業の妨害」となっています。やむを得ず遅刻した場合は後のドアから静かに入室し手近な席にそっと着席してください。

また、通常「30分の遅刻は休講」とされております。これは教員だけではなく学生にも適用されると考えてください。すなわち、正当な理由のない30分以上の遅刻は入室が禁止されてもやむを得ないと考えてください。もちろん「電車・バスの遅延やその他の理由」がある場合は別です。

途中退席の場合も教員に合図して「許可」をとった上で退席してください。

5．代返・代書の厳禁

出席や小レポートでの代返や代書などについて「まじめに出席している自分たちを欺くもの」としています。多くの場合これが「成績」に反映されているからです。従って、これが発覚したときには「した者、頼んだ者の両者」に「単位の不授」が言い渡されても仕方がないと考えてください。

6．試験・レポートでの「不正行為」「不服従」の厳禁。

試験・レポートでの不正行為は、従来から多くの場合「停学および当該学期のすべての単位の取り消し」という処置となっています。ちょっとした「出来心」でも取り返しがつきません。今後、摘発や処置に厳正さが要求されていますので疑わしい所作や行動はとらないように注意してください。

また、教員の指示に従わない場合も「不正行為」と見なされることがあります。

7．その他

授業において不満・問題を感じた時にはそのクレームを受け付ける用意を教員・大学当局は持っております。当該教員に直接言いにくい場合は「全学共通教育事務室」宛てにクレームを寄せてください。その場合、対応を返事したいと思いますので学部・学科等・学年・氏名・連絡方法を明記してください。この場合もちろん学生諸君にかかわる個人情報 は委員会内にとどまり、当該教員はじめ外部に一切もらすことはありません。

VII 教養教育推進センターの活動

本センターとして取り組んでいる主な諸活動については、下記のようなものがある。

1. FD研究会

教育の向上及び改善を目的とし、平成11年度から、毎年、教養教育についてのFD研究会を実施しており、FD開催時には、参加者に対しアンケート調査及びヒヤリングを行い、次回以後開催の当研究会に活かしている。また、当研究会は、本学の教養教育の充実を図る上でも重要な場であり、当研究会での内容は学生の教育指導に十分に反映させている。

過去5年間の教養教育についてのFD研究会の開催日及びテーマなどは、次のとおりである。

開催日	テーマ・概略	参加者数
平成13年12月12日(水)	『学力低下は本当か、なぜか、どうしたらよいか』 大学だけでなく社会問題化しつつある若者の学力低下を、初等中等教育の現情を踏まえながら検討・討論	107
平成14年12月4日(水)	『大学教育システム検証と開発』 ・本学の授業評価の目的・企画・結果・考察 ・名古屋大学における授業評価及び初年次教育への取り組みの報告	73
平成15年12月3日(水)	『大学における習熟度別学習の現状』 ※ 東海地区大学教育研究会と共催 ・茨城大学の英語教育の報告 ・新潟大学の専門学校卒業生対象カリキュラムの報告	87
平成16年12月1日(水)	『本学における教養教育のあり方』 ・学長・センターによる現状報告と各学部代表教員とのパネルディスカッション ・獣医での模擬講義の取り組み講演	107
平成17年6月22日(水)	『平成18年度以降の教養教育について』 ・本学での検討中の新たな教養教育の報告 ・教養教育推進センターの課題と経緯と題し、責任学部がセンター運営を行う提案	129
平成17年12月5日(月)	『学生による授業評価と授業改善について』 ・授業評価の自由記述からみた分析 ・満足度の高かった授業担当者の授業取組報告	75
平成18年7月5日(水)	『授業評価アンケートのあり方』 ・授業評価アンケートの利点・問題点の報告 ・3つの授業評価の提案及びアンケート項目の検討	112

2. 広報活動

学生、教員に対し、教養教育推進センターの活動内容、授業紹介等の幅広く情報を提供することを目的とし、ホームページのみならず、毎年、広報誌を刊行して情報提供に努めている。

- ① 広報誌・・・全教職員、全学生に配布
 - ・平成17年3月・・・第1号「ディアローク」
特集－教養教育の改革－
 - ・平成18年3月・・・第2号「ディアローク」
特集－私たちの期待する教養教育とは－
 - ・平成18年3月・・・教養教育 こんな授業を受けたい「ベスト10集」
「学生の評価する授業」と「その教員の意識と授業方法」特集広報誌にあつては、本年度から「ディアロース」と改め、年2回刊行する。
- ② 平成18年度は、広報誌のほかに多くの情報を定期的に提供することを目的とし、新たに教養教育ニュースレター「アングリア」を刊行した。
 - ・平成18年6月・・・創刊号
 - ・平成18年9月・・・第2号
- ③ ホームページ・・・大学のホームページと連動し、多数の情報を提供してきた。
平成18年4月から現行のホームページの体裁とし、検索機能の改善などを図り、一層充実した内容として開設している。

○掲載情報

広報誌・刊行物、FD研究会、履修案内、シラバス、授業評価など

VIII 自己点検・評価のまとめと評価

真の意味での専門知識というのは、幅広い人文や社会、自然などに関わる知識とそれを総合的に相関させることのできる知見によって支えられる。しかし、近代科学技術の先鋭化に伴い、日本では学問とは『たこつば的な専門教育』と信じ込んでしまった嫌いがあった。

そのため、大学からはかつてあった教養教育課程が撤廃され専門教育に比重がかけられてしまったのだが、それにともなって知識の断片化と応用・創造力の欠如が現れてきたことが近年懸念されるようになった。

しかし、かといって教養教育課程の復活は即座には難しい。そのため新しい形での教養教育のあり方が現在全国的に模索されるようになっているわけである。岐阜大学としても、そうした問題意識と課題に取り組み、教養教育に関わる組織を委員会組織からセンター組織へと拡充して事にあたってきた。

この自己点検はそうした営みのとりあえずの総括であり、今後への踏み台とするものであるが、これまでに当センターが取り組んできた課題は次のようにまとめられる。

第一は、人文、社会、自然、スポーツ健康、言語、総合といったさまざまな分野を満遍なく学習させるというシステムであり、そのため分野ごとにさらに内容を整理して系として整理し、それらを現在のスタッフで可能な限りでの開講科目数の量とバランスを考えてカリキュラムを構成し、それぞれの分野から一定の単位数を必修として履修させる制度とした。こうして分野ごとにその内容を整えて行った。

第二に、学生の立場に立った教育内容と方法の改善に取り組み、そのための学生による「授業評価」の詳細な分析に取り組み、その結果として学生の満足度の高い授業を選び出し、その授業の担当教員に授業に関わる意識や授業方法の工夫などを聴き取って「モデル授業集」を発刊して教員の授業改善の一助にしてもらうと同時に学生の授業への姿勢の見直しなどを期待した。

第三に、教養教育の重要性や内容、システムについての広い情宣の必要を感じてその充実を図り、年間二回にわたるFD研究会や広報誌、さらに年四回のニュースレターの発刊にまで拡充していった。同時に学生からの「声」を反映させるべく「投書箱」を設置し、即座に返答というシステムを構築した。

第四に、学習支援体制の確立を図り、先ず数学・物理でのリメディアルの授業体制を整えた。次に、英語に対するリメディアルの体制の構築へと取り組んでいる。また、ステップ・アップのためのシステムとして自学自習システム「アルク」の導入をし、それへの情宣活動に入っている。

ただし、こうした総括の結果、まだまだ課題として取り組んで行かなければならない諸問題も表面化しており、上記の実施した課題においても、不備や拡充の必要性が発見され、現在テーマごとにその解決・拡充への方途を検討し開発している途上にある。

今後とも多くの学生・教員、外部識者の声を集め、さらなる充実した教養教育システムの確立を図って行きたい考えている。

岐阜大学教養教育推進センター

副センター長 小澤 克彦